

テーマ：看護学生のための看護過程自学習ツールの開発

■ 背景

看護師は、看護過程（アセスメント→看護診断→目標・成果・成果指標の設定→看護計画の立案→実施→評価）の6つのステップにより、ケアを行なっている。対象である患者・家族の状態やニーズを捉え、問題とその方策を導き出していくには、繰り返しの思考トレーニングが必要となる。多様な人間の反応を捉えるために、初学者には、徹底的検討法で様々なパターンを経験させ、思考させることにより、全体像を把握させる。その後、個々の学生の気づきに合わせて、仮説演繹法などの思考の型を教授し、思考を深化させていく。

現在、多くの教育現場では、学生に思考したことを記録させ、提出された紙面に教員がコメントを返す形を取っている。1症例につき何度もコメントを行い思考力・判断力を引き出す。しかし、学生一人一人へのコメント記入には、多くの時間を要する。また、学生はフィードバックを得るまでに多くの時間を待つ。さらに、紙媒体では、実習グループ内で学びを共有しにくく、臨床実習においては、実習記録の紛失リスクもある。



■ 現在の課題解決に向けて

紙媒体ではなくExcelやWordでのやり取りも可能だが、送受信の手間を考慮すると何かの情報媒体上で動くアプリケーションが理想的である。OneDriveのような同時書き込み機能があれば、学生の記録時間を妨げず、教員がタイムリーにコメントできる、コメント定型文機能はコメントの効率を上げる、記録をグループメンバー全員で共有することで全員での学びも可能となる。将来的には、学生の記録内容とそれに対する教員コメントをAIに学習させることにより、学生が看護過程を自学習できるアプリケーションの開発に繋げることも可能と考えられる。なお、当教室では、そのための、教員コメント付きの学生記録データが揃っている。

■ 市場性

これは全国の看護教育現場で共通するニーズである。学生には、卒業までには15-30症例の看護過程の展開が課せられるのが通常である。全国で看護学部は国立46大学、公立49大学、私立218大学に設置されており、令和2年度の入学者は2万3千人を超える。また、看護系専門学校は全国に約530校ある。従って、潜在的ニーズは大きいことが推定される。

■ 臨床看護学講座老年看護学ホームページ

<http://www.shiga-med.ac.jp/~hqronen/staff.html>